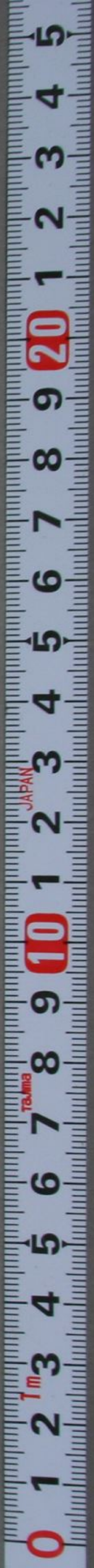




遠 13
1703
2 止





門へ 13
 1705
 2

八幡守り

おつみんおま乃勢に
 ちがとすつくおるに
 りれく前節へ遠入
 可いナ
 子とやれハそ
 ゆびさきに
 ひ、やりと
 さられと
 あ



柱の根継

下モ乃お客さん此風呂へ
おめーをいれさせと下女
志々せよれありかむ
そ道とあゆんであぶ
いってあつやせんきふ
湯に入りあふよと湯あ
ゆきて風呂をえねを
あふ風呂とてこれこ
こあをよて上げとい
れをうけあふり此客
人あふ風呂をいす
しけけ板をふて
どとふてのけて中へ



えいれえこ一面の釜
ゆきあーの〜〜〜
こと〜風呂乃うきに
かけ〜あ〜を中〜浮け
めぢ〜〜〜の月風
長たまの下男が客を
湯へあふいごきさせぬ
と湯もハイヤ湯あふ
はあひろあ〜ろ〜
あつやたさ〜月
風ハらん風呂ふよ
入のふといす下男
うあふ〜〜〜
室あふろし下女
いいてあふれふいふ



五重遠い

すこのめが骨うゝおてしせことおのづからのおちか
 やうに親がちやうと百目けいおし入してゐる紙をう
 こがしておつておひやつめ何とやらどてそ
 とておろし処へおらんおまこと酒をぶちちうく
 めうておゆるをヤレまおごぞうめおのれまのお百
 目のよを何とや中川よりやうに云おうと面を
 へくのちれハて親に換のまやうさんかろの所ハ
 てた吏うやうおほふておさいまうそおのれハも
 つたいおんたまの金銀をたてんやにあてまひ
 まさおのれがゆくせがおりひやうるハいた吏
 ておあれたるをやういふかつぬりおのれハ
 あらう家へがらうよとさうおれハヤキ又ものう

いーおせんてア
 十九ふハ大吏の揚代
 二十おめでけい
 ちやう中おと
 ちやうつておの
 目と金銀ハ
 かごのつて
 おし
 親に
 ちやう
 ぬを
 あらう
 む





いかのほり

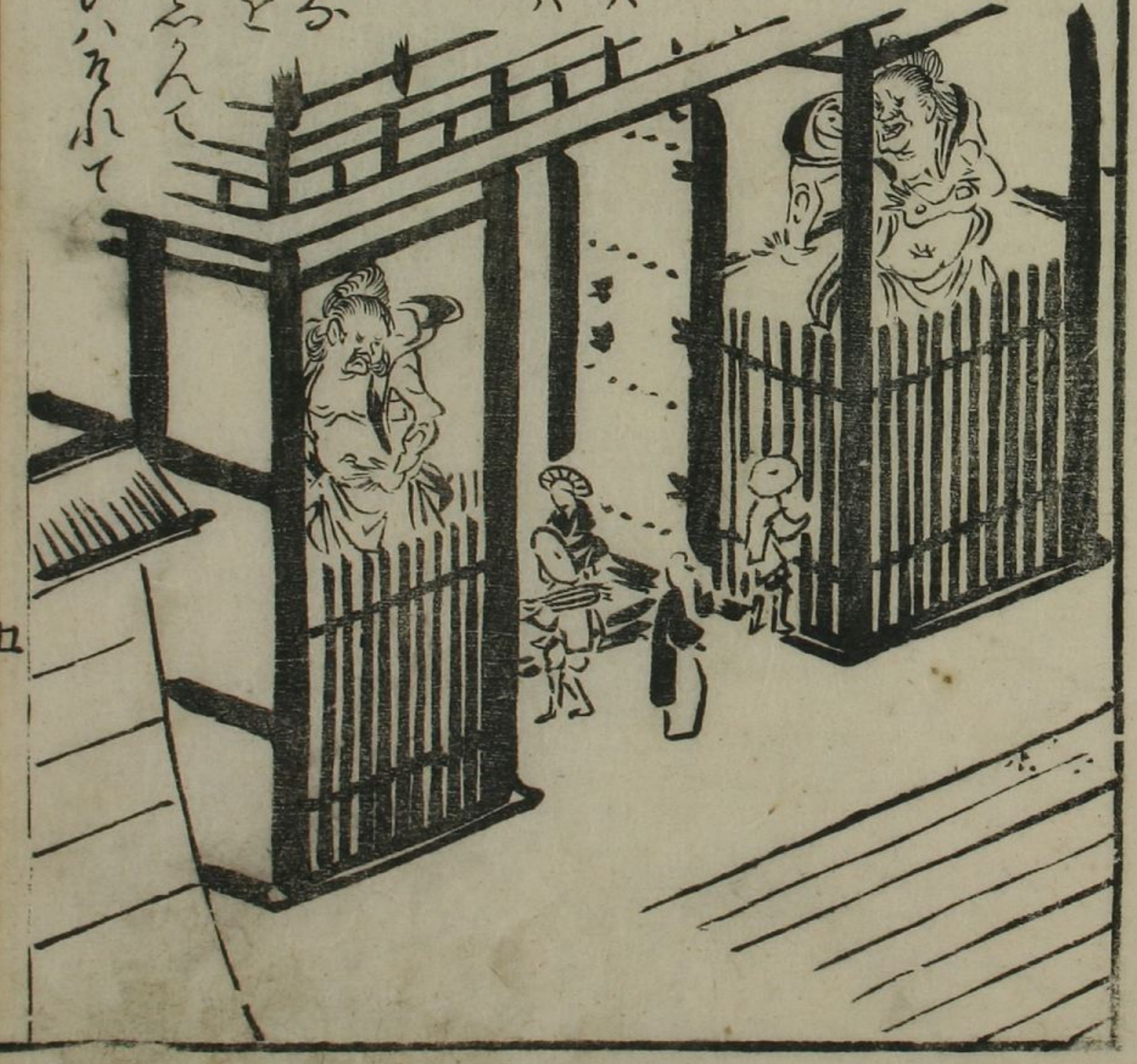
げきづつはくくだえと江戸あすりの中^{うち}内^{うち}親^{おや}に^に十
 ニふてござるといふをきんどみ、後^{のち}い^いやうや^やあ^あにせうのイヤま
 か^かぬ^ぬあ^あ一文^{いちもん}やつこ^こ乃^のありてす^すえ^えめ^めづ^づハ^ハ実^{じつ}お^おく^くか^かる^る
 一^いに^にまん^{まん}せ^せイヤ^{イヤ}を^をう^うは^はあ^あめ^めづ^づ後^{のち}を^を文^{ぶん}お^おハ^ハと^とあ^あこ^こさん
 か^かゝ^ゝあ^あが^がれ^れこ^こん^んふ^ふん^んあ^あゝ^ゝぬ^ぬと^と目^めを^を止^{とど}め^めバ^バ親^{おや}に^にも^もえ^えま^まを^を
 う^うぬ^ぬも^もな^なけ^けに^に地^ち者^{もの}た^たう^うひ^ひと^と悪^{わる}は^はい^いあ^あか^かり^りま^まて^てに^には^はう^うを^を
 お^お所^{ところ}を^をと^とあ^ありの^の男^{おとこ}を^をり^りま^まり^りて^てり^りく^く江戸^{江戸}の^の親^{おや}方^{かた}と^とな^な
 お^おま^まへ^へ乃^のが^がな^なじ^じや^や何^{なん}お^おも^もひ^ひと^とす^すに^にこ^こう^うさ^さげ^げん^んを^を一^いこ^こち^ちこ^こう^うと^と
 一^い盞^{さん}の^のん^んて^てち^ちんで^でられ^れる^るま^まれ^れと^とさ^さめ^めく^くあ^あど^どむ^むれ^れと^と奴^{やつ}と^とい^い
 つ^つれ^れう^うあ^あゝ^ゝん^んあ^あゝ^ゝな^なれ^れと^と目^めを^を止^{とど}め^めお^おる^る奴^{やつ}を^をむ^むり^りに^にお^お家^{いえ}
 へ^へば^ばれ^れか^かつ^つり^りコ^こリ^りヤ^やく^くよ^よの^の酒^{さけ}の^のか^かん^んを^をば^ばち^ちて^てお^おて^てさ^さう^うあ^あ
 が^が何^{なん}も^もあ^ある^るす^すじ^じと^と言^いふ^ふお^お下^{した}等^らと^とて^てま^まて^て田^{でん}角^{かく}に^に切^きつ^つて^てお^お
 た^たし^しと^との^のに^にて^てくれ^れい^い

八味丸

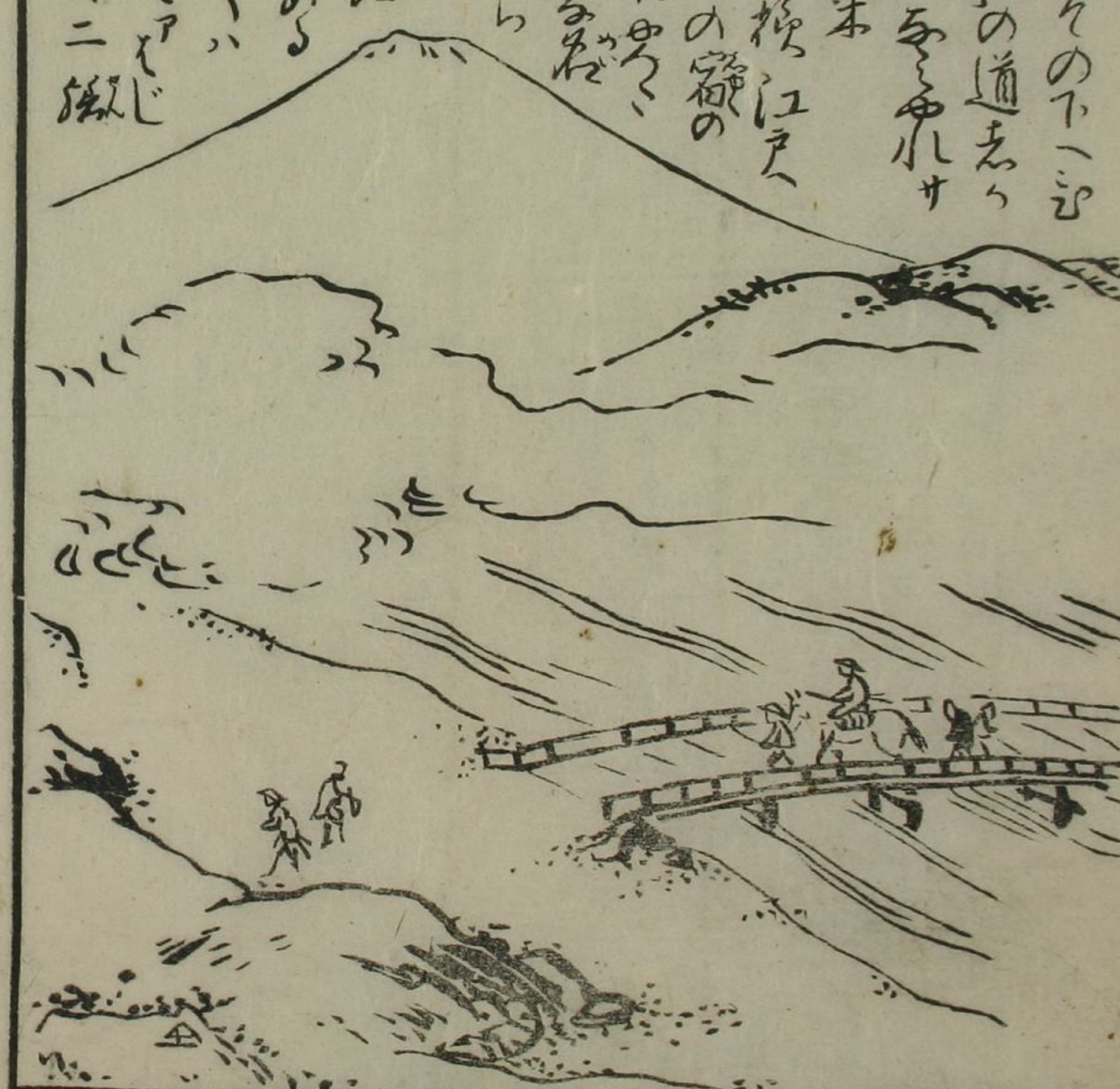
田舎の道有る板のた
 五寺へ氣遣ふむの
 二王を足てアすあつ
 たいな二王様の御身内
 二紙をきつて的るハ
 どや〜〜〜ものや
 とふ〜〜〜がれはらば
 にいの人ぞアおま
 方ハ思ふの氣でげ
 ちハあるあぢ二王
 様と紙をかけるあ
 しをたつ〜やふ志
 てふれとして我
 のあは



紙とあて
 りの紙つ叶ふ
 一人があのふ
 け〜〜〜とま
 て道をた〜人
 いる〜〜〜上か
 の霊場〜〜〜あ
 りの〜の奇持ハ
 ありたの〜や
 二〜〜様は
 あ〜のち〜や
 二王様と紙を
 い〜と紙とふ
 折れハ紙とふ



二重橋のふその下へ
 つまやうはれの道ちう
 おのゝたゝをみれ
 梅さき
 コレいふおき橋江戸
 徳いおありこの橋の
 ころ、汁を喰ひ
 うイヤ、いふおき
 物がある
 かのんいふ
 あれをあらね
 といふこがある
 ものうれく
 名物、やうのて
 の一、おき又二、おき



かなふと二せんめがす又に
 まるう、いふおきめがす
 せんめがす又おきめが
 又又六せんめが
 二又七せんめが
 てきんハせんめが
 さきき二又つ
 ころちへも、いふ
 りれて道中
 の大いん、おき
 そいふけを
 こと、おき



身をく
 しへおきハサ

細川の圖

コレくみ紙に何れ
ういてられんや今
ちや〜何となくま
〜よ 墨書同がようふ
うイヤ〜書ちやら
ひぞ画がかいてや
ハナハつ〜い 松の
松とや書ちや〜ま
あよそてさてさ
いふてちやうふ
ツイざんとかいてれ
るふれ コハ
ひらち

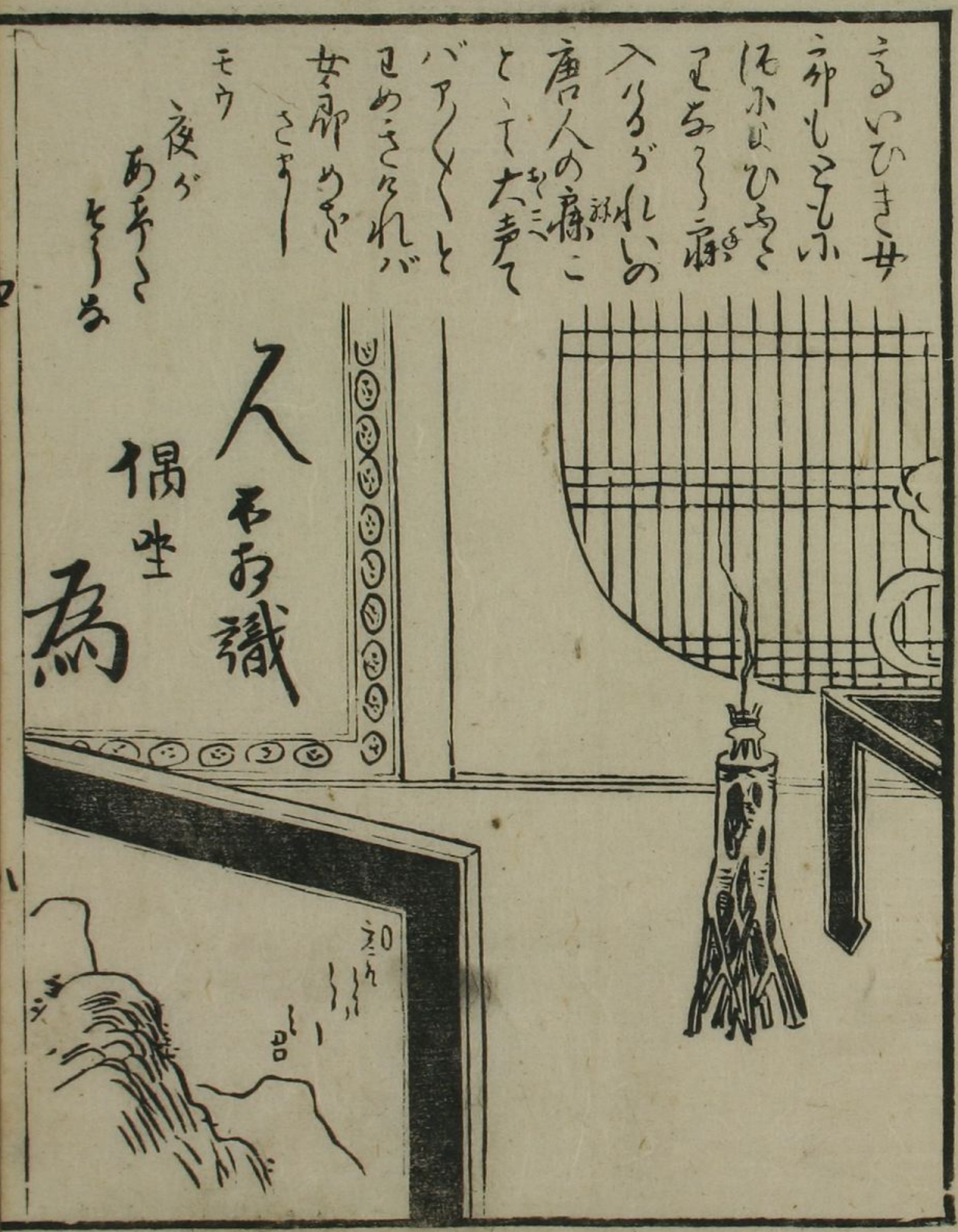


今よてはは弦々
かけるものり
サリトハげしち〜
よる人トや何ても
たふなひとよ
のよついでこへ
花でもかひ〜
のあ〜い〜が
初山松待
てもせし
あつ起〜
よん
い





藤原の女房長
 宴へ仕ふられ九
 山まで都の秋遠
 ととふとくく
 分たんとも唐
 初対面うら
 の人をよめあ
 らせ石もそれ
 て床に入らめ
 ちんちんを
 大破るゆ
 せんこもあ



ういひき甘
 神もとし小
 ほふひあ
 正なる一
 入るがれい
 唐人の癖こ
 とて大
 バア
 目めさされ
 女房め
 こそ

人
 石お識
 偶坐
 為

去の瘡こゝ

[illegible]

イヤセエやうよ



春の落氷

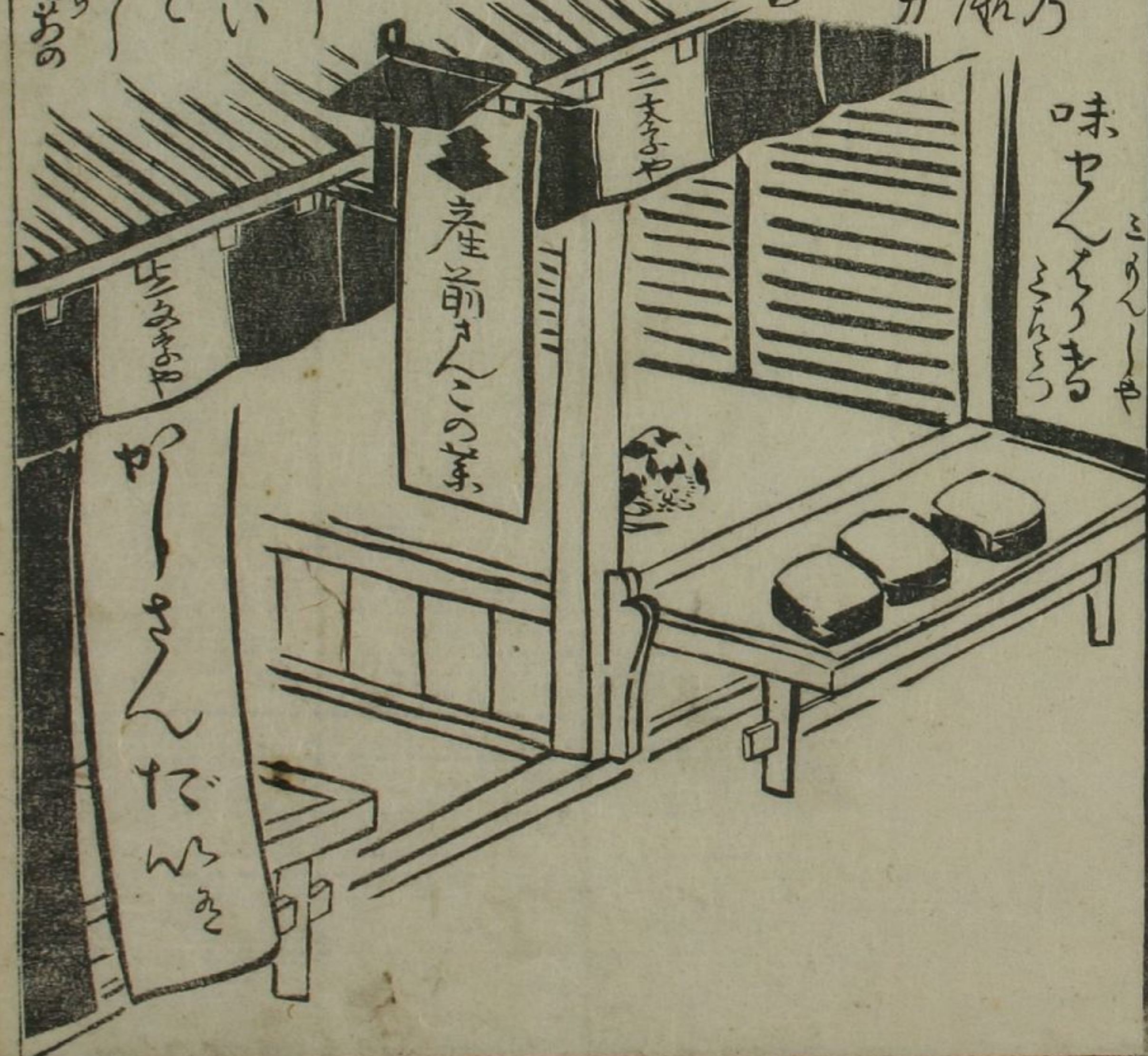
ちとれさんおまの釣て棚が落ちておれやうぞ
 ナニ極が落ちるらんらんなるなるおれはるるがどやぞ
 めんどやあらイマゴもやれや茶碗のおれまつのせ
 もくに落るるなとてさめつる物のせいのなひいで



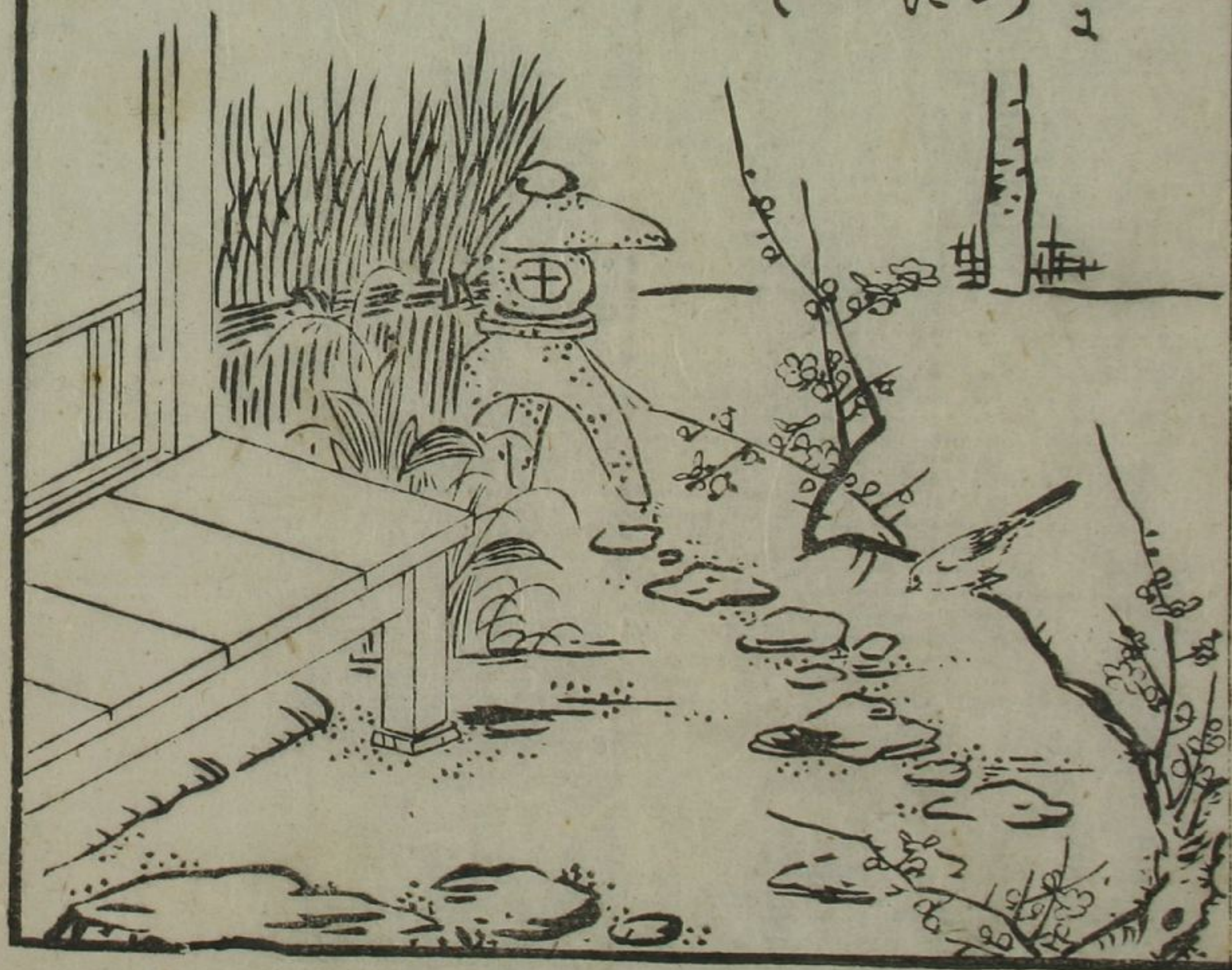
天地人

三本三本とといふ人
 三河の三河侍の三男
 大坂へあり三卿の
 内て家の三ヶ所も
 三はあつたといふ三休橋
 三羽目して間只
 三万圓の三三三
 乃家と名ひきき
 三階の三三三
 商賣ハ三三三
 三味せんこの茶と
 三味せんこの茶と
 さんだいせふも越え

味せん



清原君は毎朝もこれに
 ぬふらんもおまはさうつ
 とそも清を去でゑんに
 ああさふぬにハ若とつ
 ものハござうすれまゐと
 以バア人のゆを
 志やなうりうが若ハ
 こゝろの座の梅のま
 毎日く^{うぐいす}さふま
 うえけうすれり^{うぐ}
 わしが若でござう
 いふうにこれハア
 どうしこの梅ニ^{さう}



さえはかいたのゝこゝ
 ありまゝの何のミナ
 ありまゝの隠れされハ
 當るが来てなくはげれと
 梅の花を散せが
 花とちりてすひと
 當るがみだれこそ是が
 若くはうすれといつて
 うの人横をとおるやと
 れんるゝのもごう
 私も去年はれの小児が
 一人ごうすれがたの
 ちりてこの小児あれじ
 なうれすひとありハ
 高き岩がみだれす



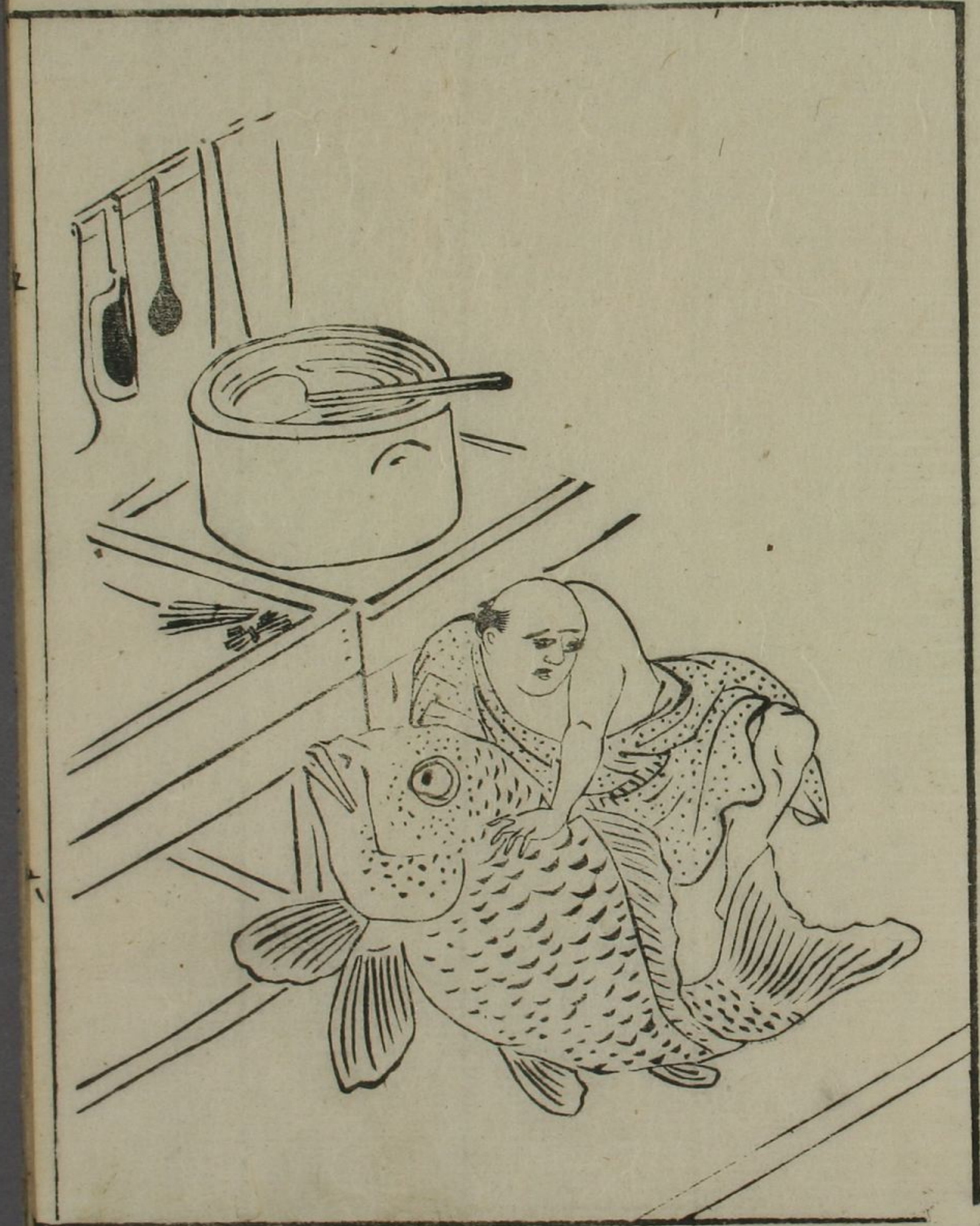


右の御掛物
 旦那御宗室皇帝乃三弟あり
 るされやせといろけてんせる大様
 物旦那はくく見て
 こき振も偽りをいふ
 人いふ御宗の白ふ乃
 三弟といふはすれれ
 鯛の画や御宗
 皇帝といふあんまりか
 にせもの頼る一白の
 こころめサレハのゆで
 ござりすれは掛物ニ
 宗人目利とや
 るがござりすんハ
 アレあの絵に目
 玉うけにあら、
 昔梅若丸御宗



皇帝の鯛の絵
 に目玉を入しめ
 鯛うんとて出され
 うのちささる
 あの鯛も目玉を
 入るゝ忽ち入て
 出されぬ乃
 奇様きうい
 いされぬ
 手てござり
 ずのりいれ
 ハ云う是物の
 たわーは鯛に目玉を
 入て西手を試みられ
 庭のらん水へぬぬ
 せん戸をきめられた

かねて大がかりな表の戸もたて
 もせし四方へふくそり網の
 弦に圓玉を入れふくまひ
 網地糸をとなれハチと
 那れおく一様方へしおれハ
 面戸に合せん合らるゝ表に
 戸をキリしあたりせんこき
 てゆい氷あるんこきと
 も子うりまう遠あ
 高しとおくへくこき
 圓やけ網ハユリマとや
 カレハいつを演焼ニて一献
 たごませふろこきやまろそ
 うろこふくやう揚ゆやう火
 餅、かけた所おとあかんこき



古くは

する番宅下女とて、おてんばも、モウけまきさへ、八咫ヤタ痛イタ
 うして、氣色きしきがさうひよいや、きんのいすて、どおあんすうらくさ
 夜よ業わざ曜よう病やまいが、さうなあんあうと、仕しるや、ひて、むじあうす、
 りれて、當いふの個こを、さうさみ、さうて、見みさうか、さうて、さう
 氣色きしきさうさうさう、さうさう、さうさう、さうさう、さうさう、さうさう、
 人ひとに、さうさう、さうさう、さうさう、さうさう、さうさう、さうさう、
 さうさう、さうさう、さうさう、さうさう、さうさう、さうさう、
 味あじも、人ひとの、番ばん宅たく、八は月げつ、さうさう、さうさう、さうさう、さうさう、
 よ、人ひとの、番ばん宅たく、八は月げつ、さうさう、さうさう、さうさう、さうさう、
 になつて、見みた、ひと、下した女めさうさう、さうさう、さうさう、さうさう、
 ぐさう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、
 祇ただあ、人ひとの、番ばん宅たく、八は月げつ、さうさう、さうさう、さうさう、さうさう、
 ひ、番ばん宅たく、八は月げつ、さうさう、さうさう、さうさう、さうさう、
 ケツカウ

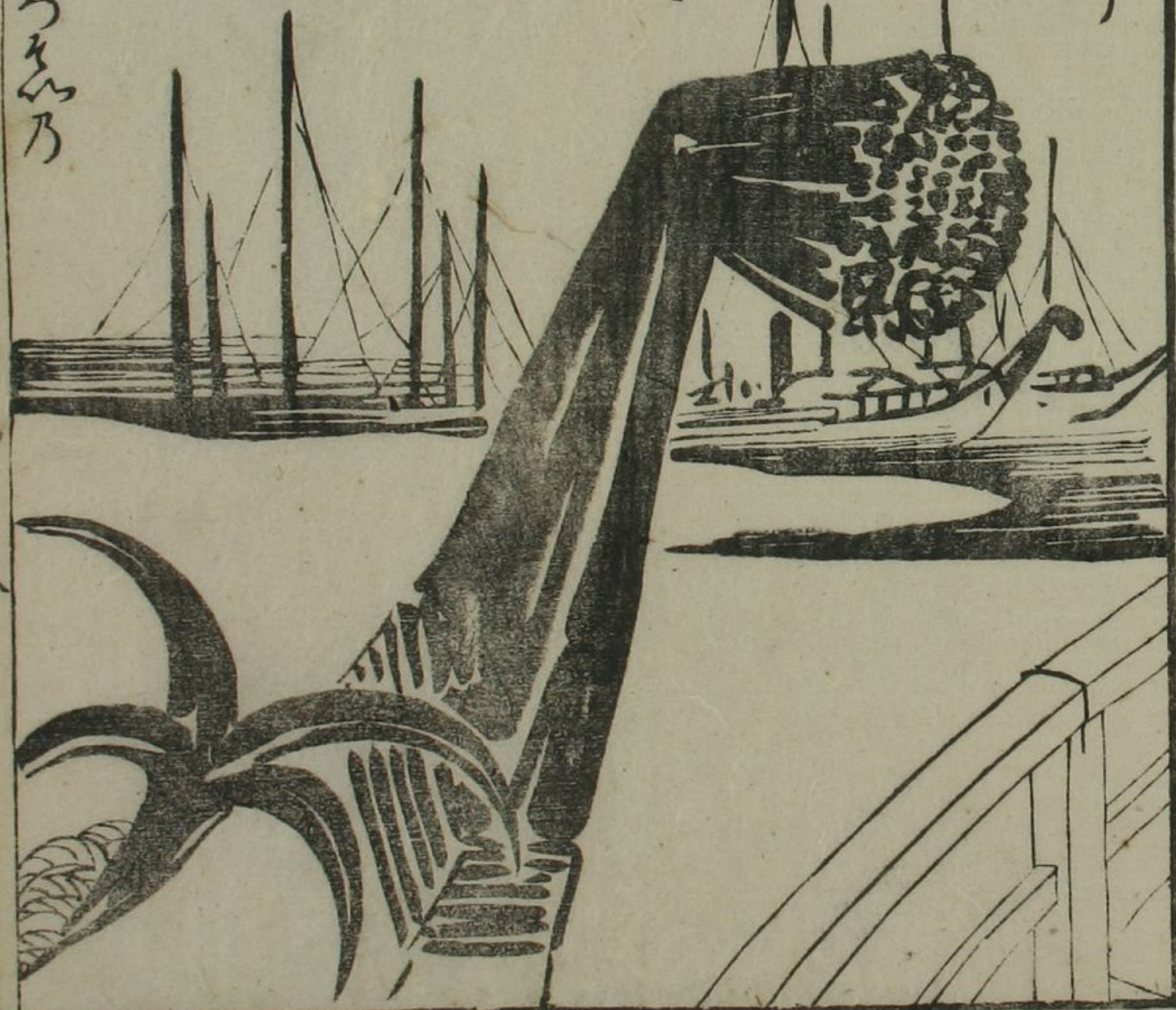


こゝば長者也あれと
 尺や京てはあはれぬ
 海船もあはれやなむ
 いのちいふ名の御天より
 長たう肝をばす
 とてふもあはれな
 大佛さぬ乃に山より
 そしてこゝちへかゝる
 是さすしひ物なり
 あはれやこゝ何なる
 ごさうなれとふ
 顔といふと尺と
 ちうちうち長
 のあやうかといふ



何乃あれが釣瓶つるびんう
あれが船ふねあゝいかうと
いふものゝや日のと
おくられても世を
一向いっさうかゝる人あり
いふハ何なんはさうよて
ござるぞん 上

い
何なる
ものや
も
そゝぬぐ
た
船の志づんと
川をさしてあける
船なりて
あろふ乃



奴角内すかりか^い且那^なへ中上す^い縁^へごふ何者^ななりま
つ白^はる^るくく^いい^いを^をか^てし^し祕^ひの^の梅^う乃^の枝^えを^をお^おす^す
い^いを^をマ^マて^てあ^あり^りま^まし^し且那^なあ^あに^に細^こい^い白^はく^くう^うく^くい^いも^もで^で梅^う
を^をお^おす^すう^うり^りう^うた^たか^かと^と世^よであ^あろ^ろび^びつ^つく^くう^うせ^せぬ^ぬう^うに^にと^と
あ^あり^り又^{また}可^か因^{いん}う^うと^とま^まり^り且那^なへ^へ中上^{ちゆうじやう}す^すい^い黒^{くろ}毛^けの^のと^と
く^くも^もて^て梅^うを^をお^おす^すい^いう^うゆ^ゆひ^ひす^すせ^せあ^あ且那^なを^をひ^ひつ^つた^たか^かと^と男^{おとこ}く
あ^あり^りた^たい^いと^と声^{こゑ}で^でう^うく^くあ^あり^り角^{かく}内^{ない}す^すと^とま^まり^り中上^{ちゆうじやう}す^すい^い
度^どか^かと^とい^いら^らしい^い子^こ供^{ども}の^のも^もて^て梅^うを^をお^おす^すい^いう^うく^くも^もか^かり^り
い^いま^ませ^せあ^あ且那^なう^う子^こ供^{ども}の^のも^もて^てお^おな^なう^うむ^むし^しの^のあ^あぬ^ぬも^もあ
り^りち^ちい^いさい^{さい}と^と声^{こゑ}で^であ^あり^り可^か因^{いん}す^すと^とか^かけ^けま^まり^りは^は度^どハ^ハ竹^{たけ}
乃^のこ^こう^うむ^むさ^さみ^み派^{はい}と^とう^うく^く梅^うを^をお^おす^すい^い且那^なを^をう^うく^くも^もと^と
て^てお^おハ^ハる^る声^{こゑ}で^であ^あり^り可^か因^{いん}角^{かく}内^{ない}一^{いっ}時^じか^かす^すと^と中上^{ちゆうじやう}す^すい^い
は^は度^どハ^ハあ^ある^るも^もあ^あい^いも^もみ^みう^うむ^むし^しの^のあ^ある^るも^もこ^こ毛^け乃^のな^ない^い

子供乃ち志あるを以て手本と爲さむと云ふに
 射り手おすいといふを以てひそよ且那その様大
 せいしておあるはこちも家内のおそれかき一度三声を
 あせせておくれ可内角内ハアかきこすりすといふ且那
 コリヤ其内志あるは手本と爲さむと云ふに



古今の春

なんは梅ハ京
イヤツモすこ
乃おい
市観山上野
増上寺い
酒の有
蛇の蛸
蛇たふせ
とと園東
さうさ
二度たふ
ナサイ



尾張東壁堂藏板目録

名古屋本町通七丁目

永樂屋東四郎

北齋漫画

北齋画

全一冊

光琳漫画

全一冊

同拾壹篇

同画

全一冊

北雲漫画

全一冊

北齋画式

同画

全一冊

文鳳鹿画

全一冊

北齋鹿画

同画

全一冊

蕙齋鹿画

全一冊

繪本雨筆

同画

全一冊

月樵鹿画

全一冊

戴斗画譜

同画

全一冊

担画苑

全一冊

三體圖譜

同
画

全一冊

臨本孝經

全一冊

一筆畫

同

全一冊

同新山科

全五冊

名家畫譜

全三冊

同春の錦

全二冊

福善齋畫譜

全五冊

同
東
波
橋

全一冊

畫譜

全冊

同大江山

全一冊

豐國玉

全一冊

同曹我拙信

全一冊

繪本今川

全一冊

同嘆分曹者

全一冊

北雲漫畫

浮世繪一風滑稽の人物
草花の写生貴一乃書也

北雲子ハその師小舞翁の骨肉とて、
 久しく庵府にありて人懐くありて、
 遠くを考へて、
 又と心より、
 又もや、
 時ハ世ハ普通の画臨本と、
 その、
 葉の、
 比類、
 尾張書肆
 東隣堂誌

尾張書肆

東齋誌

